

製品名: MEK-1/2 (リン酸化 Ser218/222) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05004**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP2K1/MAP2K2
別名	MAP2K1; MEK1; PRKMK1; Dual specificity mitogen-activated protein kinase kinase 1; MAP kinase kinase 1; MAPKK 1; MKK1; ERK activator kinase 1; MAPK/ERK kinase 1; MEK 1; MAP2K2; MEK2; MKK2; PRKMK2; Dual specificity mitogen-activated protein k
遺伝子 ID	5604/5605
SwissProt ID	Q02750/P36507
免疫原	抗血清は、Ser217 のリン酸化部位周辺のヒト MEK1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 189-238

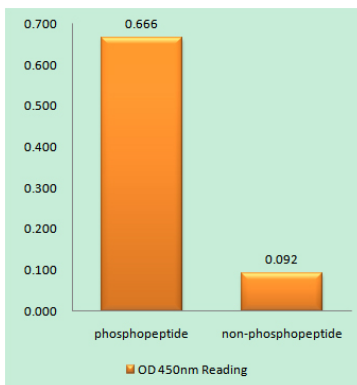
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、二重特異性タンパク質キナーゼファミリーのメンバーであり、ミトジェン活性化タンパク質 (MAP) キナーゼキナーゼとして機能します。MAP キナーゼは細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) としても知られ、複数の生化学的シグナルの統合ポイントとして機能します。このタンパク質キナーゼはMAP キナーゼの上流にあり、さまざまな細胞外および細胞内のシグナルに対してMAP キナーゼの酵素活性を刺激します。MAP キナーゼシグナル伝達経路の必須コンポーネントとして、このキナーゼは増殖、分化、転写制御、発達などの多くの細胞プロセスに関与しています。[RefSeq 提供、2008年7月]触媒活性: $ATP + \text{タンパク質} = ADP + \text{リン酸化タンパク質}$ 。疾患: MAP2K1 の欠陥は、心顔皮膚症候群 (CFC 症候群) の原因です[MIM : 115150];心臓顔面皮膚症候群とも呼ばれる CFC 症候群は、特徴的な顔貌、心臓欠陥、および精神遅滞を特徴とします。心臓欠陥には、肺動脈狭窄、心房中隔欠損、肥大型心筋症などがあります。罹患した人の中には、まばらで脆い毛髪、角質増殖性皮膚病変、全身性魚鱗癬様症状などの外胚葉異常を呈する人もいます。典型的な顔貌はヌーナン症候群に類似しており、両側頭頂部の狭窄を伴う高い額、眼窩上隆起の形成不全、眼瞼裂の下垂、鼻梁の陥没、耳介後角化と突出耳介などが含まれます。CFC 症候群の遺伝は常染色体優性です。、酵素制御:リン酸化によって活性化されます。、機能:MAP キナーゼに存在する Thr-Glu-Tyr 配列中のトレオニンおよびチロシン残基の同時リン酸化を触媒します。ERK1 および ERK2 MAP キナーゼを活性化します。、PTM:Yersinia yopJ によるアセチル化によりリン酸化と活性化が抑制され、MAPK シグナル伝達経路が阻害されます。、PTM:MAP キナーゼ (RAF または MEKK1) による Ser/Thr のリン酸化により、キナーゼ活性が正に制御されます。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。、類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼサブファミリー。、類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、サブユニット:MORG1 と相互作用する (類似性による)。Yersinia yopJ と相互作用する。

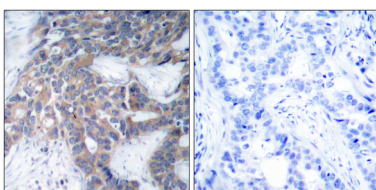
研究分野

血管新生の調節、アクチンダイナミクスの調節、幹細胞経路、T細胞受容体、細胞増殖、インスリン受容体、Toll様、MAPK、ERK 増殖、MAPKG タンパク質、ErbB/HER、B細胞抗原、PI3K/Akt

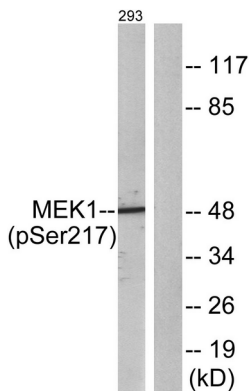
画像データ



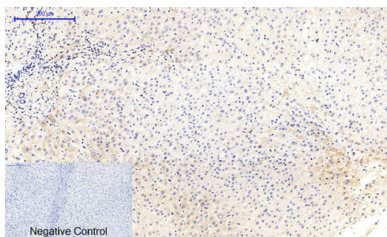
MEK1/2 (リン酸化 Ser217) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



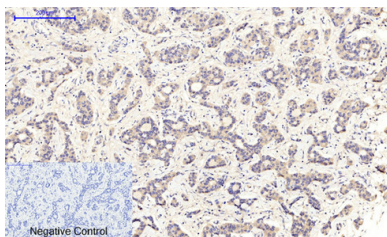
MEK1/2 (リン酸化 Ser217) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



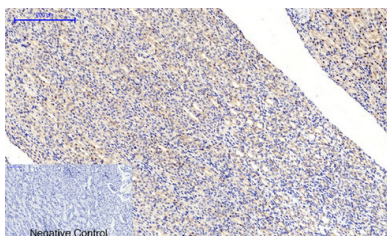
PMA 125 ng/ml 30分処理した 293 細胞ライセートの MEK1/2 (リン酸化 Ser217) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



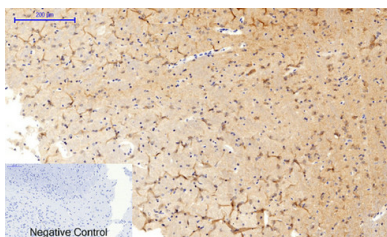
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. MEK-1/2 (リン酸化 Ser218/222) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. MEK-1/2 (リン酸化 Ser218/222) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



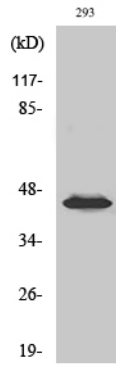
パラフィン包埋ラット腎臓組織の免疫組織化学染色。1. MEK-1/2 (リン酸化 Ser218/222) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット脳組織の免疫組織化学染色。1. MEK-1/2 (リン酸化 Ser218/222) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



ホスホ MEK-1/2 (S218/222) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



リン酸化 MEK-1/2 (S218/222) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析